カイニョ倶楽部会報　第 37号

平成１７年９月発行　発行者　砺波カイニョ倶楽部　代表幹事　柏樹直樹
事務局　富山県砺波市表町７－２５　電話　0763－33－6588　　天野一男建築工房内

夕陽と散居暮色に感動

「上から散居を見て一パイやろう」のカイニョ倶楽部懇親会を 8 月 27 日砺波市夢の平スキー場で開いた。11 名が参加した。当日は夕陽も綺麗で西山に太陽が沈む一刻一刻の暮色がみんなの心をしっかりしばりあげ、いつの間にかその変化のとりこになっていた。

「散居もまだすてたもんでないワ」静寂を破ったのがこの一言。みんながドラマの大迫力の中に「生かされている」と受けとめるまでいくばくかの空白のあったことを感じとっていた。そのあと「コスモス荘」で懇親会を開き、アルコールも加わりそれぞれの思いや意見を出しあった。まとまった話ではないが、次のようなことが話題になった。

- 「千年の森づくり」テーマをどう受け止め、応えられるか。倶楽部の思いと一致するのではないか。
- 古い家具は大事にしなくては。特にキリ材の工品はすごいものだ。
- 昔あった「ネカビッツイ」がないか（もみがらをたくかまど）
- グリーン・ツーリズムに加わった活動は倶楽部では無理ではないか。
- 田園博物館の施設のまわりの植林に関心を持っている。

（写真・夢の平から見た日没の散居村）

（写真・コスモス荘での懇親）

カイニョ調査〈資源発生量〉終る

カイニョ倶楽部が手伝って、昨年８月から今年７月までの１年間カイニョ資源発生量調査（落葉等）をやりとげた。この調査に会員 26 名が参加、その総延出役日数 64 日間。砺波地区の５軒宅の定点調査で集めた分はリサイクルセンターで活用を考える方向での調査。資料をまとめ年間どれだけの資源（落葉）が出るのかを数値に引き出そうという調査でこれからその取りまとめに入る。

アメリカシロヒトリ大発生

この８月下旬、砺波市内の街路樹や屋敷林のカキ、サクラ等の葉をなめつくし、短期間で木を真っ赤にしてしまうアメリカシロヒトリが大発生した。特に砺波では出町から林、油田地区に多発。四季彩館、文化会館、エレガガーデン筋の街路樹も真っ赤になった。この報告を野松欣一さん（会員）からいただき、市へも対応を急ぐようもとめた。幼虫にはデープテレックス、スミチオンの撒布がよい。北日本新聞でも９/８、９/９にアメシロの発生と対策の記事が載せられ、住民全体の防除が拡がった。アメシロは年２回発生し、８月～９月上旬の発生は２回目のもの。

富山では「フェロモン捕獲機」が効果をあげていると報じられた。
尚、フェロモン捕獲器１組は 7,350 円で約一年間使用できる。その内部に入れる吸取紙を毎年取り替えれば器具は何年か使える。富山市の野上緑化が扱っている。

医王山にカシナガキクイムシ発生

今年も医王山を中心にしたナラ、コナラが夏場に入って、カシナガキクイムシで全木枯死する被害が出た。海抜 400M位まで多発し、山田村でも出始めた。このムシの駆除の手だては無い。枯れたナラを伐採消却するか、炭に

炎天下・南砺市（城端）で見学会

ー中味の濃いカイニョのエキスを授かるー

残暑の厳しい８月２１日午前、カイニョ見学会を南砺市（城端）で開き、楽しいひとときをつくった。南砺市（城端）野田の林弘一さん宅の屋敷林ではご主人の木への熱い思いをしっかり聞かせてもらい林内を散策した。

〈林さんのお話し〉

- ２３代約５００年、引き継いでいる。この家を建てて９０年になった。
- 全ての屋敷林内の木を親と思っている。
- 屋敷林内のモク（コケ）は手をかけてやって増え盛り上がる。
- 庭の石のほとんどは田からのものだ。――全て根性を教える。
- 一本伐ったら、一本植える。どんな小さい木も育てる。必ず大木になる。
- 伐採株の上の実生を育てる。この姿を誇りとしてみている。
- 前庭の池はワキ水で木にも生活にも役立っている。
- 近年台所の改修をしたが、屋敷内の２本でまかなった。

〈和田健さんのお話し〉

- この近くにある野田神社のフジのまきあがり方について教わったことが林さんとの付き合いの始まりだ。
- 林宅の屋敷林は芸術作品。劇場だと思って見ている。音楽は、セミ、コオロギ、鳥でただ作品名がないだけだ。
- カイニョは役立つかどうかでなくて、生きた作品―――庭づくりと全く違う楽しみの積み重なった場。
- カイニョの中での安心感は同時に近隣とともに大事にしあう関係の証明だ。まさに胎内、ふところの味ではないか。
- 前庭の「カメ石」は林さんの瞑想の台だ。

林内の見学のあと、一同、前庭で車座になってお茶を飲みながら一口感想を

K：カイニョ内から見上げられる空間の落ち着きにひかれた。
N：涼しくてどの木も元気だ。
T：一本一本への思いやり、木と一緒に生きてみえる姿に感激。
K：光の差し込みが気持ちよい。
K：23 号台風で一本も倒れなかったと聞いてすごいと感じた。
F：そこにある木を生かしつくられるカイニョ。世界中どこを探しても見られない形だ。
S：５００年経つとこんな味をくれるのか。
H：個人のものとはいえ、世界の遺産だ。
D：完成への深さに加え、全て途上であることも教えられた。
K：家族あげた管理が大変だ。木と人の一体感の見本。

帰りに奥さんの手づくりの菊をたくさんお土産にいただいた。

その後、城端・東新田神明社の社叢をみた。神社総代の上野さんから境内の木や歴史、拝殿内を案内いただいた。地の利を生かした里山の植物もたくさん入った社叢と、本殿もすっぽりつつむ敷地内のとり方、社殿までの参道の古いスギに圧倒された。

〈和田健さんのお話し〉

- シデが多い。中低木がスソの役割をして樹叢を支える。ヒノキ、コナラ、シロダモ、ヤブツバキ、ヒサカキ、ヤマハゼが入る。
- スギ大木は古い。350 年大祭が行われたというからそれ以上かもしれない。
- 本殿後ろの敷地が広く木でおおわれていることは神を奉る気持ちとしておごそかさを感じる
- 社叢全体から「おそれ」「うやまい」を感じ、それが安心、安定感につながる。

参加者一同の感想「こんな落着いた深い社叢があるとは思いもしなかった。踏み込んでみてはじめて味わえた重みに感動した」当日の参加者１２名ともに中味の濃いカイニョ再考のエキスを授かった見学会だった。

この日２ヶ所の総合案内と説明は地元で会員の和田健さんが行った。